

令和6年 11月暮らしのお手入れ

目次

- (1)  メガネの汚れや傷が気になる
- (2)  旬過ぎた本処分、収納グッズも

 **11月の住まいのお手入れ - 家の環境** 隙間風が入る



(1) **メガネの汚れや傷が気になる**

中性洗剤で洗浄、水ですすぐ

*メガネの汚れを放置するとレンズやフレームの劣化が早まるので、その日のうちに洗い流します。

☆正しいメガネの洗い方

- ①メガネを水ですすぎ、ホコリを落とす
- ②レンズに中性洗剤を1滴垂らして指の腹で優しく洗う
- ③フレーム部分も同様に洗ったら水で洗い流し、水をティッシュでふき取る
- ④メガネクロスを使ってレンズとフレームを丁寧に拭き上げる

*石鹸でしっかり手を洗ってからメガネを洗うように。

☆メガネのお手入れポイント

- ハンドソープは避け中性洗剤で
 - *メガネを洗う際は中性洗剤を使う。
 - *弱酸性のハンドソープはレンズのコーティングに負荷をかけてしまうので避ける。
- お湯は使わず真水ですすぐ
 - *レンズのコーティングは熱に弱い。
 - *メガネを洗う際は必ず真水ですすいで、ティッシュで水分をしっかりふき取る
- 定期的なメンテナンス
 - *レンズの傷などは目の疲れにつながる。
 - *購入店で年1回は見え方やかけ心地、ネジのゆるみなどをチェック。

(2024年10月12日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(2) 旬過ぎた本処分、収納グッズも

本や雑誌があふれて片付かない

- *本を漫然と所有していると収納スペースからあふれて生活を圧迫します。
- *まず、持っている本の量を把握することが大事。
- *本棚から全部出して、どのくらいの量の本と暮らすのが理想かを一度考えます。
- *出した本は処分するか、手元に残すかで分別します。
- *残す本が決まったら、どこに収納するかを考えます。
- *「もう一度読み返すかもしれない」「手元に残しておきたい」本は、多少取り出しにくい場所も収納候補に。
- *常に動きがある本棚が理想。
- *本棚に収納するときは、背表紙が見えるように縦に並べます。
- *重い本は下段に、よく読む本は目線から腰の高さあたりに置きます。
- *ジャンルやサイズで分け、基本は一行に並べます。
- *本の上に本を重ねたり、ぎゅうぎゅうに詰めたりすると取り出しにくい上、本の傷みや湿気の原因になります。
- *本棚の容量の9割を目安に。
- *高い場所に本を置くと、地震の際に頭上に落ちてきてけがをする危険性。
- *不要になった本はリサイクルに。
- *話題の本はなるべく旬のうちに出した方が、フリマサイトでも古本屋でも高く売れる傾向があります。



☆本や雑誌の整理のポイント

- *本棚の本を全部出して、所有している量を把握する
- *旬が過ぎた本は処分。手元に残したいかどうかを見極める
- *過去・現在・未来の時系列で本を把握し、収納方法を分ける

理想の本棚の選び方

- *入れる本のサイズと、部屋のどこに置くのかに合わせて選びます。
- *できれば高さは腰高くらいまでのものに。
- *高さのある本棚は、転倒リスクなど防災の観点からはおすすめできません。
- *棚板が可動できるタイプを。
- *奥行きはA4サイズが収まる35cmくらいまでが本を取り出しやすく使い勝手がよいです。
- *扉付きのものはホコリが入りにくく、大切に扱いたい本の収納に向いています。
- *頻繁に本の出し入れをする人には、フルオープンタイプの方が実用的。
- *「選んだ本棚に入る量だけ所有する」と決めると、整理の一つの目安に。

(2024年10月19日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)



11月の住まいのお手入れ - 家の環境

隙間風が入る



☆診断の手順

- *窓回り・壁の上部・壁の下部・床・天井・ドア回りなど、隙間風が入ってくる部分をチェックします。
- *家に大きな隙間があれば断熱・気密性能も落ちますし、外気からも湿気を取り込んでしまいます。
- *換気扇を回すことによって空気が引っ張られ、隙間風が入ることがあります。

☆対処方法

●窓回りからの隙間風の場合

- *窓の建付けが悪いと、そこから入ることがあります。
- *窓枠と壁とに隙間があり、そこから風が入る場合は窓の取り付けに問題があることが考えられます。
- *工務店に相談します。

●コンセントボックスからの隙間風の場合

- *壁内を空気が通過するために、コンセントやスイッチのプレートから隙間風を感じるがあります。
- *建築士か工務店に相談します。

●壁と床・壁と天井からの隙間風の場合

- *壁と床・壁と天井との交差部分には、施工上隙間が生じることがあります。
- *そのために、幅木や廻り縁という材料を使うこともあります。
- *その取り付け自体に大きな隙間が生じていると、風が入ってくる場合があります。
- *建築士か工務店に相談します。

●ドアからの隙間風の場合

- *室内外に温度差があると、隙間風が生じる場合があります。
- *換気扇の使用時にも空気が流れます。
- *建築士か工務店に相談します。

●給気口からの隙間風の場合

- *自然給気口からは空気が常に入ってきます。
 - *換気計画上必要なものです。
 - *給気口によっては、室内で風向きを変えられるタイプのものもあります。
- (参考：NPO法人家づくり援護会「わが家の診断&対処法」)

